

米国チャータースクールからみるの教育と都市 ——カルフォルニア州サンフランシスコ市を事例として——

Special and educational analysis of charter schools in San Francisco

地理環境学コース 諏訪 久美子 Kumiko SUWA

いじめ、暴力、不登校、学級崩壊、学力の低下等の教育諸問題は学校という公共サービス・公教育システムの普遍化を一つの原因と考えることができる。このような現状は先進諸国においても同様で、公教育においてチャータースクール制度(CS)をはじめ様々な改革がなされている。CSの制度は、「自律性」、「責任性」の特色から従来の公立学校とチャータースクール間での選択から競争が生じるため、理論上、現在の行き詰まりをみせつつある伝統的公教育制度に与える影響は少なくないと考えられている。

日本の公教育システムの方向性、教育諸問題の改善への条件、改革実現に向けた検討されるべき課題は何か。以上のような問題意識から、本研究では都市環境と教育という既存に無い観点から、CSを中心にサンフランシスコ統合学区を事例として現地調査を行い、各CSインタビューを行い都市とCSの関係及びその問題点について考察するものとする。さらにCSやサンフランシスコ統合学区(SFUSD: San Francisco Unified School District)から提供して頂いた資料をもとに市内の地域社会因子分析を行い、サンフランシスコの都市の特性と都市環境からのCSへの影響を明らかにし、そこから発生するCS制度についての新たな視点から問題を発見し、逆にCSから周辺地域への影響を学力面中心に考察した。

その結果、SFUSDの地域別学力分布について分析したところ、地域別にみると市の中心から東側に立地する公立校はSFUSD平均以下の低学力の学校が多いことが分かった。つまり東側の公立校に、低学力で低所得者層のエスニック・グループの家庭の子どもたちが多く通い、西側に立地する公立校の通学区にはアジア系人種が多く居住しており高学力の地域となっているため、市の中心から東西に分けて学力の高低がはっきりと分かれる状況であった。

このような状況下でSFUSDのCSは次のような成果を挙げている。CSの高校であるゲイトウェイ・HSは①地域の教育力(成績)を向上させ②多くの学習障害児を受け入れることで、通常の公

立校のその負担を軽減し③このような特別なニーズを持つ父母の要求に応える使命とそのプログラムをもち、SFUSDだけでは果せなかった役割をはたしているといえる。同じくリーダーシップHSも、多くのマイノリティ且つ低所得者層の生徒を多く受け入れ、成績不振に苦しんでいる南部の通学区地域の教育力を引き上げていることが明らかとなった。

CSの小学校であるエジソン・チャーター・アカデミー(ECA)はほぼ毎年、どの学年においても成績の向上がみられ、独自に開発した地域の低迷を続ける公立校の改善を目指したエジソン社の複製可能なプログラムにより安定的に成績を伸ばしているといえる。このようにSFUSDのCSは厳しい状況下にも関わらずSFUSDにほぼ着実な成果を挙げているといえ、周辺の地域への教育的成果をあげているといえる。

一方でCSは都市環境からは大きな影響を受けていると考えられる。サンフランシスコの地価や物価の上昇からCSが単独で校舎を確保することは非常に困難であり、SFUSDという行政機関による紹介や推薦等の援助が必要不可欠であった。そのため学区との関係の良し悪しにCS運営が影響されるという問題があると推測できる。さらに高額な校舎へ賃貸料を支払うためにその財政は圧迫されファンド・レイジングや寄付への依存が高まり、その基盤を不安定なものにしている。また市内CA5校のうち、4校が新設タイプのCSでありそのうちの3校が校舎を設立以後、移転させている。その結果CSの存在意義であるその「使命」の遂行にさえも影響を及ぼしていることが判った。地域の多様な人種構成という特色に対応するように、「多文化教育」がなされるという、教育方針・内容への影響も与えていることが判った。CSの自律性という特色は運営上の大きな強みとなりうるが、都市環境の視点からみると弱みともなりうる。